

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本

事務局長 村田慎二郎氏

「どんな人間になりたい？」

就活がうまくいかなくて…立ち止まり、自らに問い続けた

静岡大学人文学部(現・人文社会科学部)経済学科の卒業生・村田慎二郎氏が日本人で初めて、国境なき医師団日本の事務局長に就任し、活躍中です。日誌一幸学長との対談は、学生の皆さんはもちろん、社会人となった皆様に向けても大切なメッセージが込められています。

対談は、2021年11月5日に実施しました。

日誌 国境なき医師団でご活躍の村田さんが静大の卒業生と聞き、大変うれしく、誇りに思います。学生時代から国際協力の仕事を志していたのですか。

村田 いえいえ。将来仕事で役立ちそうだから、という漠然とした理由で経済学を専攻しましたが、友人とイベントサークルを立ち上げ、静大祭に出店するなど、学生生活を謳歌していました。そのうち就職活動が始まり、みんなの内定が決まっていく中で、自分だけうまくいかない、どうしよう…と。特に入りたい会社もなく、安定している大企業に入れたらいいな、という程度でしたので受かるわけがないのですが…。

日誌 ちょうどバブル崩壊後の就職氷河期の頃ですね。

村田 はい。そんな時に静岡キャンパスの生協で「絶対内定」という本に出会いました。就活をどう乗り切るか、ではなく、一度しかない人生をどう生きるか、夢は何だ?と真正面から問われて、いったん立ち止まってみたのです。納得いかないまま就活を続けるよりも、自分の人生についてじっくり考えたいと思い、1年留年して就職活動続けました。

キャリアデザインの 授業、素晴らしい ですね！

日誌 自分の人生について真剣に向き合ったのですね。

村田 おそらく就職活動が上手くいったら、自分の人生について深く考えていなかったと思います。

日誌 私も研究者になるきっかけは「自分たちで生命を守った村」という本でした。自分の生涯・命を賭けて村人を守るという、岩手県沢内村の深沢晟雄村長のお話です。このような村長さんが必要だと思い、地方自治を勉強し、研究者の道を選ぶことになりました。

日誌 静大では、「キャリアデザイン」という授業が2018年度から全学共通科目として必修になりました。自分の人生や生き方をどのように見つけていくか、職業意識や人生設計について1年生から意識付けをして、その方向に進むために4年間の学生生活をどのように過ごしていくのか、将来を見据えながら考えていきます。

村田 素晴らしいです。僕たちの頃にはなかったです。



多様な社会の担い手となる将来を見据え、近年、ディスカッションなどの参加型授業が増えている

夢を描いて、 言葉にしよう

日誌 今の仕事はこの授業があったとしても思いついてなかったのでは？ どのような出会いだったのですか？

村田 本をきっかけに自分に問いかけ、描いた将来の夢は「政治家になること」でした。じゃあ、どんな政治家になりたいんだ？と再び問い、出した答えは「自分が投票したくなる政治家」でした。40代くらいで理想像になることを目標に、外資系コンピュータ会社に入社し、ビジネスのしくみや営業という仕事の基礎

を学びました。3年目に「世界の現実を自分の目で見てみたい」「世界で最も弱い立場に居る人たちのために貢献できる仕事をしたい」との思いが強くなり、会社を辞めて国境なき医師団に応募をしました。

日誌 いきなり、ですか。語学など大丈夫でしたか？

村田 派遣先の決定まで1年半かかりました。英語を勉強しながら六本木のドン・キホーテで商品陳列をしたり、引越屋さんのバイトをしながらを待ちました。2005年、ようやくアフリカ・スーダンの首都ダルフルへの派遣を

静岡大学長

日誌 一幸

1955年、長野県出身。1991年に名古屋大学大学院法学研究科博士後期課程中途退学後、名古屋音楽大学専任講師として従事。1996年から静岡大学人文学部助教授、2000年に人文学部教授、2017年に人文社会科学部部長を務め、2021年4月から学長に就任。

特定非営利活動法人
国境なき医師団日本
事務局長

村田 慎二郎

1977年、三重県出身。静岡大学人文学部(現・人文社会科学部)経済学科卒。2005年より国境なき医師団職員として、スーダンやシリアなどで人道援助活動を行う。2020年より日本人初の事務局長として活躍。



のどかで気候が良くて、学生には申し分ない環境だったと静大での学生生活を振り返る村田氏

打診され、「いきなり1年間紛争状態の地域か」と思いましたが、そこから始まりました。

日誌 1年半待っても「絶対ここで働きたい」と思い続けることは、並大抵の人ではできないと思います。

村田 貯金が底をついて、実家に帰る準備をしていたくらいでしたが、自分には夢があると思っていました。

日誌 夢を描いて自分の言葉にすることは大事ですね。ところで、政治家になりたいという夢はどこに？

村田 初めての派遣で「こういう仕事が世の中にあつたのか！」と衝撃を受けました。国境なき医師団の名のもとに各分野のプロフェッショナルが世界中から集まり、英語を共通言語にチームを作ります。政治家にならなくても社会に貢献できる、むしろ政治の失敗によって弱い立場にいる人たちが苦しむこともあり、それを少しでも和らげたい、との思いで、政治と距離を置き、政治がカバーし切れない部分を担っています。今の夢は日本社会に人道支援を根付かせること。もっともっと活動の意義を伝えて支持を増やしたいです。

個人の成功より 大事なものはある 自分の命を大きく 使いたい

日誌 今の日本はどう思いますか。

村田 日本に帰ってくるたびに本当に平和だなと思います。夢を描こうと思えば描ける環境ですし、挑戦しようと思えばできる環境にいますので、挑戦しない

と本当にもったいないです。私自身は、個人としての成功よりも、大事なもののために自分の命を大きく使いたいと思っています。

日誌 自分の命を大きく使う、すごい言葉ですね。そんなふう自分の人生を考え活躍されている姿を見て、静岡大学で学生時代を過ごしたことが一つのきっかけとなって今日の村田さんを築いた礎になっているのは嬉しいですね。本日は、ありがとうございました。



スーダン ダルフルにて。シリア、南スーダン、イエメン、フィリピンでは活動責任者として人道援助を行う